

コード	点数表名	H18	H16	H14
D01228	感染症免疫学的検査(エンドトキシン定量検査※D007より移動、ボレリア・ブルグドルフェリ抗体価精密測定、百日咳菌抗体価精密測定、HIV-1抗体価精密測定)	○	△	△
D01229	感染症免疫学的検査(結核菌群抗原精密測定)	○	○	○
D01230	感染症免疫学的検査(タニ特異IgG抗体価)	○	○	○
D01231	感染症免疫学的検査(ワイルフェリックス反応)	○	○	○
D01232	感染症免疫学的検査(ウイダール反応)	○	○	○
D01233	感染症免疫学的検査(HIV-2抗体価精密測定)	○	○	○
D01234	感染症免疫学的検査(白血球中サイトメガロウイルスpp65抗原)	○	○	○
D01235	感染症免疫学的検査(HTLV-I抗体価精密測定(ウエスタンブロット法))	○	○	○
D01236	感染症免疫学的検査(HIV抗原精密測定)	○	○	○
D012	感染症免疫学的検査(ポールパンネル反応)	○	○	○
D012	感染症免疫学的検査(HIV envelope 抗体価及びHIV core 抗体価精密測定)	○	○	○
D0131	肝炎ウイルス関連検査(HBs抗原)	○	○	○
D0132	肝炎ウイルス関連検査(HBs抗体価)	○	○	○
D0133	肝炎ウイルス関連検査(HBs抗原精密測定、HBs抗体価精密測定)	○	○	○
D0134	肝炎ウイルス関連検査(HBe抗原精密測定、HBe抗体価精密測定)	○	○	○
D0135	肝炎ウイルス関連検査(HCV抗体価精密測定、HCVコア蛋白質測定)	○	○	○
D0136	肝炎ウイルス関連検査(HBc抗体価、HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体価精密測定、IgM-HA抗体価精密測定、HA抗体価精密測定、IgM-HBc抗体価精密測定、HCVコア抗体価精密測定)	○	○	○
D0137	肝炎ウイルス関連検査(HBc抗体価精密測定、IgM-HA抗体価精密測定、HA抗体価精密測定、IgM-HBc抗体価精密測定、HCVコア抗体価精密測定)	○	○	○
D0138	肝炎ウイルス関連検査(HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体価精密測定)	○	○	○
D0139	肝炎ウイルス関連検査(HCV特異抗体価測定による群別判定)	○	○	○
D01310	肝炎ウイルス関連検査(デルタ肝炎ウイルス抗体価精密測定)	○	○	○
D01311	肝炎ウイルス関連検査(HCV特異抗体価精密測定)	○	○	○
D0141	自己抗体検査(寒冷凝集反応)	○	○	○
D0142	自己抗体検査(リウマチ因子スクリーニング)	○	○	○
D0143	自己抗体検査(リウマチ因子測定)	○	○	○
D0144	自己抗体検査(甲状腺自己抗体検査)	○	○	○
D0145	自己抗体検査(抗ガラクトース欠損IgG抗体)	○	○	○
D0146	自己抗体検査(Donath-Landsteiner試験(寒冷溶血反応))※D005より移動	○	△	△
D0147	自己抗体検査(抗DNA抗体)	○	○	○
D0148	自己抗体検査(抗核抗体)	○	○	○
D0149	自己抗体検査(抗核抗体精密測定、インスリン抗体精密測定、抗ガラクトース欠損IgG抗体精密測定、マトリックスメタロプロテイナーゼ-3(MMP-3)自己抗体検査(抗SS-A/Ro抗体、抗SS-B/La抗体、抗Scl-70抗体、抗Jo-1抗体、甲状腺自己抗体精密測定、抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体、抗RNP抗体)	○	○	○
D01410	自己抗体検査(抗Sm抗体、抗SS-A/Ro抗体精密測定、抗SS-B/La抗体精密測定、抗Scl-70抗体精密測定、C1q結合免疫複合体精密測定)	○	○	○
D01411	自己抗体検査(抗DNA抗体精密測定)	○	△	△
D01412	自己抗体検査(抗セントロメア抗体精密測定)	○	○	○
D01413	自己抗体検査(抗セントロメア抗体精密測定)	○	○	○
D01414	自己抗体検査(モノクローナルRF結合免疫複合体精密測定)※D015より移動	○	△	△
D01415	自己抗体検査(C3d結合免疫複合体精密測定、IgG型リウマチ因子精密測定)※D015より移動	○	△	△
D01416	自己抗体検査(抗ミトコンドリア抗体精密測定、抗カルジオリピンβ2グリコプロテイン(抗CLβ2GPI)複合体抗体、抗LKM-1抗体精密測定)	○	○	○
D01417	自己抗体検査(抗カルジオリピン抗体精密測定、TSHレセプター抗体精密測定)	○	○	○
D01418	自己抗体検査(血清中抗デスメグレイン3抗体)	○	○	○
D01419	自己抗体検査(ループスアンチコアグulant、細胞質性抗好中球細胞質抗体価、抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体(MPO-ANCA)、抗糸球体基底膜抗体精密測定)	○	○	○
D01420	自己抗体検査(血清中抗デスメグレイン1抗体)	○	○	○
D01421	自己抗体検査(TSH刺激性レセプター抗体(TSAb)精密測定)	○	○	○
D01422	自己抗体検査(抗アセチルコリンレセプター抗体価)※D012より移動	○	△	△
D0151	血漿蛋白免疫学的検査(C反応性蛋白(CRP)定性、C反応性蛋白(CRP)精密測定)	○	○	○
D0152	血漿蛋白免疫学的検査(赤血球コプロポルフィリン定性、G-6-Pase)※D007より移動	○	△	△
D0153	血漿蛋白免疫学的検査(G-6-PDH定性、赤血球プロトポルフィリン定性)※D007より移動	○	△	△
D0154	血漿蛋白免疫学的検査(血清補体価(CH50)、免疫グロブリン)	○	○	○
D0155	血漿蛋白免疫学的検査(α1-酸性糖蛋白測定、クリオグロブリン)	○	○	○
D0156	血漿蛋白免疫学的検査(血清アミロイドA(SAA)蛋白精密測定)	○	○	○
D0157	血漿蛋白免疫学的検査(トランスフェリン)	○	○	○
D0158	血漿蛋白免疫学的検査(補体蛋白(C3)、補体蛋白(C4))	○	○	○
D0159	血漿蛋白免疫学的検査(セルロプラスミン)※D007より移動	○	△	△
D01510	血漿蛋白免疫学的検査(非特異的IgE、特異的IgE)	○	○	○
D01511	血漿蛋白免疫学的検査(β2-ミクログロブリン(β2-m)精密測定、プレアルブミン、レチノール結合蛋白(RBP))	○	○	○
D01512	血漿蛋白免疫学的検査(レチノール結合蛋白(RBP)精密測定)	○	○	○
D01513	血漿蛋白免疫学的検査(α1-ミクログロブリン ※D007より移動、ハプトグロビン(型補正を含む。))	○	△	△
D01514	血漿蛋白免疫学的検査(α1-酸性糖蛋白精密測定)	○	○	○
D01515	血漿蛋白免疫学的検査(C3プロアクチベータ)	○	○	○
D01516	血漿蛋白免疫学的検査(ヘモベキシン、アレルゲン刺激性遊離ヒスタミン(HRT)測定)	○	○	○
D01517	血漿蛋白免疫学的検査(血中APRSコア、アトピー鑑別試験)	○	○	○
D01518	血漿蛋白免疫学的検査(頸管腔分泌液中癌胎児性フィブロネクチン)※D007より移動	○	△	△
D01519	血漿蛋白免疫学的検査(尿蛋白免疫電気泳動)※D001より移動	○	△	△
D01520	血漿蛋白免疫学的検査(免疫電気泳動法(同一検体に対し一連につき))	○	○	○
D01521	血漿蛋白免疫学的検査(C1インアクチベータ)	○	○	○
D01522	血漿蛋白免疫学的検査(免疫グロブリン鎖κ/λ比)	○	○	○
D01523	血漿蛋白免疫学的検査(結核菌特異蛋白刺激性遊離インターフェロン-γ)	○	○	○
D0161	細胞機能検査(表面免疫グロブリン測定検査(一連につき))	○	○	○

コード	点数表名	H18	H16	H14
D0162	細胞機能検査(顆粒球機能検査(種目数にかかわらず一連につき))	○	○	○
D0163	細胞機能検査(フローサイトメトリー法によるT細胞・B細胞百分率検査)	○	○	○
D0164	細胞機能検査(モノクローナル抗体法によるT細胞サブセット検査(一連につ	○	○	○
D0165	細胞機能検査(顆粒球スクリーニング検査(種目数にかかわらず一連につ	○	○	○
D0166	細胞機能検査(フローサイトメトリーのTwo-color分析法による赤血球検査、リンパ球幼若化検査(一連につき))	○	○	
D016	細胞機能検査(ロゼット法によるリンパ球サブセット検査)			○
D0171	排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査(蛍光顕微鏡、位相差顕微鏡、暗視野装置等を使用するもの)	○	○	○
D0172	排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査(保温装置使用アマーバ検	○	○	○
D0173	排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査(その他のもの)	○	○	○
D0181	細菌培養同定検査(口腔、気道又は呼吸器からの検体)	○	○	○
D0182	細菌培養同定検査(消化管からの検体、血液又は穿刺液)	○	○	○
D0183	細菌培養同定検査(泌尿器又は生殖器からの検体)	○	○	○
D0184	細菌培養同定検査(その他の部位からの検体)	○	○	○
D0185	細菌培養同定検査(簡易培養検査)	○	○	○
D0191	細菌薬剤感受性検査(1菌種)	○	○	○
D0192	細菌薬剤感受性検査(2菌種)	○	○	○
D0193	細菌薬剤感受性検査(3菌種以上)	○	○	○
D019-2	酵母様真菌薬剤感受性検査	○	○	○
D0201	抗酸菌分離培養検査(抗酸菌分離培養検査1)	○	○	○
D0202	抗酸菌分離培養検査(抗酸菌分離培養検査2)	○	○	○
D0211	抗酸菌同定検査(ナイアシンテスト)	○	○	○
D0212	抗酸菌同定検査(その他の同定検査(種目数にかかわらず一連につき))	○	○	○
D0221	抗酸菌薬剤感受性検査(培地数に関係なく)(3薬剤以下)	○	○	○
D0222	抗酸菌薬剤感受性検査(培地数に関係なく)(4薬剤以上)	○	○	○
D0231	微生物核酸同定・定量検査(白血球中細菌核酸同定検査(1菌種あたり))	○	○	○
D0232	微生物核酸同定・定量検査(淋菌核酸同定精密検査、クラミジアトラコマチス核酸同定精密検査)	○	○	○
D0233	微生物核酸同定・定量検査(淋菌核酸増幅同定精密検査、クラミジアトラコマチス核酸増幅同定検査)	○	○	○
D0234	微生物核酸同定・定量検査(HBV核酸同定精密測定、HBV核酸定量測定) ※D013より移動	○	△	△
D0235	微生物核酸同定・定量検査(淋菌及びクラミジアトラコマチス同時核酸増幅同定精密検査)	○		
D0236	微生物核酸同定・定量検査(DNAポリメラーゼ)※D013より移動	○	△	△
D0237	微生物核酸同定・定量検査(HCV核酸同定検査)	○	○	○
D0238	微生物核酸同定・定量検査(抗酸菌群核酸同定精密検査)	○	○	○
D0239	微生物核酸同定・定量検査(結核菌群核酸増幅同定検査)	○	○	○
D02310	微生物核酸同定・定量検査(マイコバクテリウムアビウム・イントラセルラー核酸同定精密検査)	○	○	○
D02311	微生物核酸同定・定量検査(HIV-1核酸同定検査)※D012より移動	○	△	△
D02312	微生物核酸同定・定量検査(HCV核酸定量検査)	○	○	○
D02313	微生物核酸同定・定量検査(血清中のHBVプレコア変異及びコアプロモーター変異遺伝子同定検査)	○	○	
D02314	微生物核酸同定・定量検査(ブドウ球菌メチシリン耐性遺伝子同定検査)	○	○	○
D02315	微生物核酸同定・定量検査(SARSコロナウイルス核酸増幅検査)	○	○	○
D02316	微生物核酸同定・定量検査(HIV-1核酸増幅定量精密検査)	○	○	○
D02317	微生物核酸同定・定量検査(結核菌群リファンピシリン耐性遺伝子同定検査)	○	○	○
D02318	微生物核酸同定・定量検査(HIV-ジェノタイプ薬剤耐性検査)	○	○	○
D023-21	その他の微生物学的検査(黄色ブドウ球菌ペニシリン結合蛋白2'(PBP 2'))※D018より移動	○	△	△
D023-22	その他の微生物学的検査(尿素呼吸試験)※D018より移動	○	△	△
D023-23	その他の微生物学的検査(腸炎ピブリオ菌耐熱性溶血毒(TDH)検査)※D01	○	△	△
D023-24	その他の微生物学的検査(大腸菌ペロトキシシン検出検査)※D012より移動	○	△	△
D024	動物使用検査	○	○	○
D0251	基本的検体検査実施料(1日につき)(入院の日から起算して4週間以内の	○	○	○
D0252	基本的検体検査実施料(1日につき)(入院の日から起算して4週間を超えた	○	○	○
D0261	検体検査判断料(尿・糞便等検査判断料)	○	○	○
D0262	検体検査判断料(血液学的検査判断料)	○	○	○
D0263	検体検査判断料(生化学的検査(I)判断料)	○	○	○
D0264	検体検査判断料(生化学的検査(II)判断料)	○	○	○
D0265	検体検査判断料(免疫学的検査判断料)	○	○	○
D0266	検体検査判断料(微生物学的検査判断料)	○	○	○
D027	基本的検体検査判断料	○	○	○
D028	削除[※基本的検体検査判断料(II)]	○	○	○
D100	病理組織迅速顕微鏡検査(1手術につき)	○	○	○
D101	病理組織顕微鏡検査(1臓器につき)	○	○	○
D101-21	その他の病理組織検査(エストロゲンレセプター検査)	○	○	○
D101-22	その他の病理組織検査(プロゲステロンレセプター(PgR)検査)	○	○	○
D101-23	その他の病理組織検査(HER2タンパク)	○	○	○
D1021	細胞診検査(1部位につき)(婦人科材料)	○	○	○
D1022	細胞診検査(1部位につき)(その他)	○	○	○
D103	削除[※染色体検査はD006-5へ移動]	○	○	○
D103-2	HER2遺伝子	○	○	○
D104	病理学的検査診断・判断料(病理診断料)	○	○	○
D105	病理学的検査診断・判断料(病理学的検査判断料)	○	○	○
D2001	スパイログラフィー等検査(肺気量分画測定)(安静換気量測定、最大換気量測定を含む)	○	○	○
D2002	スパイログラフィー等検査(フローボリュームカーブ)(強制呼出曲線を含む)	○	○	○
D2003	スパイログラフィー等検査(機能的残気量測定)	○	○	○
D2004	スパイログラフィー等検査(呼気ガス分析)	○	○	○
D2005	スパイログラフィー等検査(左右別肺機能検査)	○	○	○

コード	点数表名	H18	H16	H14
D2011	換気力学的検査(呼吸抵抗測定)	○	○	○
D2012	換気力学的検査(コンプライアンス測定、気道抵抗測定、肺粘性抵抗測定、1回呼吸法による吸気分布検査)	○	○	○
D2021	肺内ガス分布(指標ガス洗い出し検査)	○	○	○
D2022	肺内ガス分布(クロージングボリューム測定)	○	○	○
D2031	肺胞機能検査(肺拡散能力検査)	○	○	○
D2032	肺胞機能検査(死腔量測定、肺内シャント検査)	○	○	○
D204	基礎代謝測定	○	○	○
D205	呼吸機能検査等判断料	○	○	○
D2061	心臓カテーテル法による諸検査(一連の検査について)(右心カテーテル)	○	○	○
D2062	心臓カテーテル法による諸検査(一連の検査について)(左心カテーテル)	○	○	○
D2071	体液量等測定(体液量測定、細胞外液量測定)	○	○	○
D2072	体液量等測定(血流量測定、皮弁血流量検査、循環血流量測定(色素希釈法によるもの)、電子授受式発消色性インジケータ使用皮膚表面温度測定、	○	○	○
D2073	体液量等測定(心拍出量測定、循環時間測定、循環血液量測定(色素希釈法以外によるもの)、脳循環測定(色素希釈法によるもの))	○	○	○
D2074	体液量等測定(脳循環測定(笑気法によるもの))	○	○	○
D2081	心電図検査(四肢単極誘導及び胸部誘導を含む最低12誘導)	○	○	○
D2082	心電図検査(ベクトル心電図、体表ヒス束心電図)	○	○	○
D2083	心電図検査(携帯型発作時心電図記憶伝達装置使用心電図検査)	○	○	○
D2084	心電図検査(パリストカルジオグラフ)	○	○	○
D2085	心電図検査(その他(6誘導以上))	○	○	○
D2091	負荷心電図検査(四肢単極誘導及び胸部誘導を含む最低12誘導)	○	○	○
D2092	負荷心電図検査(その他(6誘導以上))	○	○	○
D2101	ホルター型心電図検査(解析料を含む)(30分又はその端数を増すごとに)	○	○	○
D2102	ホルター型心電図検査(解析料を含む)(8時間を超えた場合)	○	○	○
D210-2	体表面心電図、心外膜興奮伝播図	○	○	○
D211	トレッドミルによる負荷心肺機能検査、サイクルエルゴメーターによる心肺機能検査	○	○	○
D212	リアルタイム解析型心電図	○	○	○
D212-2	携帯型発作時心電図記録計使用心電図検査	○	○	○
D213	心音図検査	○	○	○
D2141	脈波図、心機図、ポリグラフ検査(脈波図、心機図、ポリグラフ検査実施料)	○	○	○
D214-2	エレクトロキモグラフ	○	○	○
D2151	超音波検査(記録に要する費用を含む)(Aモード法)	○	○	○
D2152	超音波検査(記録に要する費用を含む)(断層撮影法)	○	○	○
D2153	超音波検査(記録に要する費用を含む)(UCG)	○	○	○
D2154	超音波検査(記録に要する費用を含む)(ドブラ法)	○	○	○
D2155	超音波検査(記録に要する費用を含む)(血管内超音波法)	○	○	○
D216	サーモグラフィー検査(記録に要する費用を含む)	○	○	○
D216-2	残尿測定検査	○	○	○
D2171	骨塩定量検査(DEXA法による腰椎撮影)	○	○	○
D2172	骨塩定量検査(MD法、SEXA法等)	○	○	○
D2173	骨塩定量検査(超音波法)	○	○	○
D2181	分娩監視装置による諸検査(1時間以内の場合)	○	○	○
D2182	分娩監視装置による諸検査(1時間を超え1時間30分以内の場合)	○	○	○
D2183	分娩監視装置による諸検査(1時間30分を超えた場合)	○	○	○
D219	ノンストレステスト	○	○	○
D2201	呼吸心拍監視、新生児心拍・呼吸監視装置、カルジオスコープ(ハートスコープ)、カルジオオタコスコープ 赤文字H18追加(1時間以内又は1時間につき)	○	△	△
D2202	呼吸心拍監視、新生児心拍・呼吸監視装置、カルジオスコープ(ハートスコープ)、カルジオオタコスコープ 赤文字H18追加(3時間を超えた場合)	○	△	△
D221	削除			
D2221	経皮的血液ガス分圧測定、血液ガス連続測定 赤文字H18追加(1時間以内又は1時間につき)	○	△	△
D2222	経皮的血液ガス分圧測定、血液ガス連続測定 赤文字H18追加(5時間を超え)	○	△	△
D223	経皮的動脈血酸素飽和度測定	○	○	○
D223-2	終夜経皮的動脈血酸素飽和度測定	○	○	○
D224	終末呼気炭酸ガス濃度測定	○	○	○
D2251	観血的動脈圧測定(カテーテル挿入に要する費用及びエックス線透視の費用を含む)(1時間以内の場合)	○	○	○
D2252	観血的動脈圧測定(カテーテル挿入に要する費用及びエックス線透視の費用を含む)(1時間を超えた場合)	○	○	○
D225-2	非観血的連続血圧測定	○	○	○
D2261	中心静脈圧測定(4回以下の場合)	○	○	○
D2262	中心静脈圧測定(5回以上の場合)	○	○	○
D2271	頭蓋内圧持続測定(1時間以内又は1時間につき)	○	○	○
D2272	頭蓋内圧持続測定(3時間を超えた場合)	○	○	○
D228	深部体温計による深部体温測定	○	○	○
D229	前額部、胸部、手掌部、足底部体表温度測定による末梢循環不全状態観	○	○	○
D2301	観血的肺動脈圧測定(1時間以内又は1時間につき)	○	○	○
D2302	観血的肺動脈圧測定(2時間を超えた場合)	○	○	○
D231	人工膀胱	○	○	○
D232	食道内圧測定検査	○	○	○
D2331	直腸肛門機能検査(1項目行った場合)	○	○	○
D2332	直腸肛門機能検査(2項目以上行った場合)	○	○	○
D234	胃・食道内24時間PH測定	○	○	○
D235	脳波検査(過呼吸、光及び音刺激による負荷検査を含む)	○	○	○
D235-2	長期継続頭蓋内脳波検査	○	○	○
D2361	脳誘発電位検査(脳波検査を含む)(体性感覚誘発電位)	○	○	○
D2362	脳誘発電位検査(脳波検査を含む)(視覚誘発電位)	○	○	○

H16下線部分変更 トレッドミルによる負荷心肺機能検査、サイクルエルゴメーターによる心肺機能検査

H16下線部分変更 一回又は1時間につき

H16下線部分変更 一回又は1時間につき

コード	点数表名	H18	H16	H14
D2363	脳誘発電位検査(脳波検査を含む)(聴性誘発反応検査、脳波聴力検査、脳幹反応聴力検査、中間潜時反応聴力検査 赤文字H18追加)	○	△	△
D236-2	光トポグラフィー	○	○	○
D236-3	神経磁気診断	○	○	○
D2371	終夜睡眠ポリグラフィ(携帯用装置を使用した場合)	○	○	○
D2372	終夜睡眠ポリグラフィ(1以外の場合)	○	○	○
D238	脳波検査判断料	○	○	○
D2391	筋電図検査[筋電図(1肢につき(針電極にあっては1筋につき))]	○	○	○
D2392	筋電図検査(誘発筋電図(神経伝達速度測定を含む))	○	○	○
D2393	筋電図検査(中枢神経磁気刺激による誘発筋電図)	○	○	○
D239-2	電流知覚閾値測定	○	○	○
D2401	神経・筋負荷テスト(テンシロンテスト(ワゴステグミン眼筋力テストを含む))	○	○	○
D2402	神経・筋負荷テスト(瞳孔薬物負荷テスト)	○	○	○
D2403	神経・筋負荷テスト(乏血運動負荷テスト(乳酸測定等を含む))	○	○	○
D241	神経・筋検査判断料	○	○	○
D2421	尿水力学検査(膀胱内圧測定)	○	○	○
D2422	尿水力学検査(尿道圧測定)	○	○	○
D2423	尿水力学検査(尿流測定)	○	○	○
D2424	尿水力学検査(括約筋筋電図)	○	○	○
D243	削除[※喉頭鏡検査]		○	○
D2441	自覚的聴力検査(標準純音聴力検査、自記オージオメーターによる聴力検査 赤文字H18追加)	○	△	△
D2442	自覚的聴力検査(標準語音聴力検査、ことばのきまとり検査 赤文字H18追加)	○	△	△
D2443	自覚的聴力検査(簡易聴力検査)	○	○	○
D2444	自覚的聴力検査(後迷路機能検査)	○	○	○
D2445	自覚的聴力検査(内耳機能検査、耳鳴検査 赤文字H18追加)	○	△	△
D2446	自覚的聴力検査(中耳機能検査)	○	○	○
D244-21	補聴器適合検査(1回目)	○	○	○
D244-22	補聴器適合検査(2回目以降)	○	○	○
D245	鼻腔通気度検査	○	○	○
D246	アコースティックオトスコープを用いた鼓膜音響反射率検査	○	○	○
D2471	他覚的聴力検査又は行動観察による聴力検査(鼓膜音響インピーダンス検査)	○	○	○
D2472	他覚的聴力検査又は行動観察による聴力検査(チンパノメトリー)	○	○	○
D2473	他覚的聴力検査又は行動観察による聴力検査(耳小骨筋反射検査)	○	○	○
D2474	他覚的聴力検査又は行動観察による聴力検査(遊戯聴力検査)	○	○	○
D2475	他覚的聴力検査又は行動観察による聴力検査(耳音響放射(OAE)検査)	○	○	○
D248	耳管機能測定装置を用いた耳管機能測定	○	○	○
D249	蝸電図	○	○	○
D2501	平衡機能検査(標準検査)	○	○	○
D2502	平衡機能検査(頭位及び頭位変換眼振検査)	○	○	○
D2503	平衡機能検査(刺激又は負荷を加える特殊検査)	○	○	○
D2504	平衡機能検査(電気眼振図)	○	○	○
D2505	平衡機能検査(重心動揺計、下肢加重検査、フォースプレート分析、動作分析検査 赤文字H18追加)	○	△	△
D2511	音声言語医学的検査(喉頭ストロボスコーピー)	○	○	○
D2512	音声言語医学的検査(音響分析)	○	○	○
D2513	音声言語医学的検査(音声機能検査)	○	○	○
D252	扁桃マッサージ法	○	○	○
D2531	嗅覚検査(基準嗅覚検査)	○	○	○
D2532	嗅覚検査(静脈性嗅覚検査)	○	○	○
D254	電気味覚検査	○	○	○
D255	精密眼底検査(片側)	○	○	○
D255-2	汎網膜硝子体検査(片側)	○	○	○
D2561	眼底カメラ撮影(通常の方法の場合)	○	○	○
D2562	眼底カメラ撮影(蛍光眼底法の場合)	○	○	○
D257	細隙燈顕微鏡検査(前眼部及び後眼部)	○	○	○
D258	網膜電位図(ERG)	○	○	○
D259	精密視野検査(片側)	○	○	○
D2601	量的視野検査(片側)(動的量的視野検査)	○	○	○
D2602	量的視野検査(片側)(静的量的視野検査)	○	○	○
D261	屈折検査	○	○	○
D262	調節検査	○	○	○
D2631	矯正視力検査(眼鏡処方せんの交付を行う場合 赤文字H18追加)	○	△	△
D2632	矯正視力検査(1以外の場合 赤文字H18追加)	○	△	△
D264	精密眼圧測定	○	○	○
D265	角膜曲率半径計測	○	○	○
D265-2	角膜形状解析検査	○	○	○
D266	光覚検査	○	○	○
D2671	色覚検査(アノマロスコープ又は色相配列検査を行った場合)	○	○	○
D2672	色覚検査(1以外の場合)	○	○	○
D268	眼筋機能精密検査及び輻輳検査	○	○	○
D269	眼球突出度測定	○	○	○
D270	削除[※眼球陥没度測定]		○	○
D271	角膜知覚計検査	○	○	○
D272	両眼視機能精密検査、立体視検査(三杆法、ステレオテスト法による)、網膜対応検査(残像法、パゴリニ線條試験による 赤文字H18追加)	○	△	△
D273	細隙燈顕微鏡検査(前眼部)	○	○	○
D274	前房隅角検査	○	○	○
D275	圧迫隅角検査	○	○	○
D2761	網膜中心血管圧測定(簡単なもの)	○	○	○
D2762	網膜中心血管圧測定(複雑なもの)	○	○	○
D277	涙液分泌機能検査、涙管通水・通色素検査 赤文字H18追加	○	△	△
D278	眼球電位図(EOG)	○	○	○

コード	点数表名	H18	H16	H14
D279	角膜内皮細胞顕微鏡検査	○	○	○
D280	レーザー前房蛋白細胞数検査	○	○	○
D281	瞳孔機能検査(電子瞳孔計使用)	○	○	○
D282	中心フリッカー試験	○	○	○
D282-2	PL法(Preferential Looking)法	○	○	○
D282-31	コンタクトレンズ検査料(コンタクトレンズ検査料1)	○		
D282-32	コンタクトレンズ検査料(コンタクトレンズ検査料2)	○		
D282-4	ダーモスコピー	○		
D2831	発達及び知能検査(操作が容易なもの)	○	○	○
D2832	発達及び知能検査(操作が複雑なもの)	○	○	○
D2841	人格検査(操作が容易なもの)	○	○	○
D2842	人格検査(操作が複雑なもの)	○	○	○
D2843	人格検査(操作と処理が極めて複雑なもの)	○	○	○
D2851	その他の心理検査(操作が容易なもの)	○	○	○
D2852	その他の心理検査(操作が複雑なもの)	○	○	○
D2853	その他の心理検査(操作と処理が極めて複雑なもの)	○	○	○
D286	肝及び腎のクリアランステスト	○	○	○
D2871	内分泌負荷試験(下垂体前葉負荷試験)	○	○	○
D2872	内分泌負荷試験(下垂体後葉負荷試験)	○	○	○
D2873	内分泌負荷試験(甲状腺負荷試験)	○	○	○
D2874	内分泌負荷試験(副甲状腺負荷試験)	○	○	○
D2875	内分泌負荷試験(副腎皮質負荷試験)	○	○	○
D2876	内分泌負荷試験(性腺負荷試験)	○	○	○
D2881	糖負荷試験(常用負荷試験(血糖、尿糖検査を含む))	○	○	○
D2882	糖負荷試験(耐糖能精密検査(常用負荷試験及び血中インスリン測定又は常用負荷試験及び血中C-ペプチド測定を行った場合)、グルカゴン負荷試験 赤文字H18追加)	○	△	△
D2891	その他の機能テスト(障機能テスト(PFDテスト))	○	○	○
D2892	その他の機能テスト(肝機能テスト(ICG1回又は2回法、BSP2回法)、ビリルビン負荷試験、馬尿酸合成試験、フィッシュバーグ、水利尿試験、アジスカウント(Addis 尿沈渣定量検査)、モーゼンタール法、キシロース試験、ヨード)	○	△	△
D2893	その他の機能テスト(胆道機能テスト、胃液分泌刺激テスト 赤文字H18追加)	○	△	△
D2894	その他の機能テスト(セクレチン試験)	○	○	○
D290	卵管通気・通水・通色素検査、ルビンテスト 赤文字H18追加	○	△	△
D2911	皮内反応検査、ヒナलगオンテスト、鼻アレルギー誘発試験、過敏性転嫁検査、薬物光貼布試験、最小紅斑量(MED)測定(21箇所以内の場合) 赤文	○	△	△
D2912	皮内反応検査、ヒナलगオンテスト、鼻アレルギー誘発試験、過敏性転嫁検査、薬物光貼布試験、最小紅斑量(MED)測定(22箇所以上の場合) 赤文	○	△	△
D291-2	小児食物アレルギー負荷検査	○		
D2921	体外からの計測によらない諸検査(循環血液量測定、血漿量測定)	○	○	○
D2922	体外からの計測によらない諸検査(血球量測定)	○	○	○
D2923	体外からの計測によらない諸検査(吸収機能検査、赤血球寿命測定)	○	○	○
D2924	体外からの計測によらない諸検査(造血機能検査、血小板寿命測定)	○	○	○
D2931	シンチグラム(甲状腺ラジオアイソトープ摂取率)	○	○	○
D2932	シンチグラム(レノグラム、肝血流量(ヘパトグラム))	○	○	○
D2933	シンチグラム(心機能検査(心拍出量測定を含む))	○	○	○
D2934	シンチグラム(肺局所機能検査、脳局所血流検査)	○	○	○
D294	ラジオアイソトープ検査判断料	○	○	○
D295	関節鏡検査(片側)	○	○	○
D296	喉頭直達鏡検査	○	○	○
D296-2	鼻咽腔直達鏡検査	○		
D297	削除			
D298	嗅裂部・鼻咽腔・副鼻腔入口部ファイバースコープ	○	○	○
D299	喉頭ファイバースコープ	○	○	○
D300	中耳ファイバースコープ	○	○	○
D300-2	顎関節鏡検査(片側)	○	○	○
D301	気管支鏡検査、気管支カメラ 赤文字H18追加	○	△	△
D302	気管支ファイバースコープ	○	○	○
D303	胸腔鏡検査	○	○	○
D304	縦隔鏡検査	○	○	○
D305	食道鏡検査、食道カメラ 赤文字H18追加	○	△	△
D306	食道ファイバースコープ	○	○	○
D307	胃鏡検査、ガストロカメラ 赤文字H18追加	○	△	△
D308	胃・十二指腸ファイバースコープ	○	○	○
D309	胆道ファイバースコープ	○	○	○
D310	小腸ファイバースコープ	○	○	○
D311	直腸鏡検査	○	○	○
D312	直腸ファイバースコープ	○	○	○
D3131	大腸ファイバースコープ(S状結腸)	○	○	○
D3132	大腸ファイバースコープ(下行結腸及び横行結腸)	○	○	○
D3133	大腸ファイバースコープ(上行結腸及び盲腸)	○	○	○
D314	腹腔鏡検査	○	○	○
D315	腹腔ファイバースコープ	○	○	○
D316	クルドスコープ	○	○	○
D317	膀胱尿道ファイバースコープ	○	○	○
D318	尿管カテーテル法(ファイバースコープによるもの(膀胱尿道ファイバースコープを含む))(両側)	○	○	○
D319	腎盂尿管ファイバースコープ(片側)	○	○	○
D320	ヒステロスコープ	○	○	○
D321	コルポスコープ	○	○	○
D322	子宮ファイバースコープ	○	○	○
D323	乳管鏡検査	○	○	○
D324	血管内視鏡検査	○	○	○

コード	点数表名	H18	H16	H14
D325	肺臓カテーテル法、肝臓カテーテル法、脾臓カテーテル法	○		
D4001	血液採取(静脈)	○	○	○
D4002	血液採取(その他)	○	○	○
D401	脳室穿刺	○	○	○
D402	後頭下穿刺	○	○	○
D403	腰椎穿刺、胸椎穿刺、勁椎穿刺 赤文字H18追加	○	△	△
D4041	骨髄穿刺(胸骨)	○	○	○
D4042	骨髄穿刺(その他)	○	○	○
D405	関節穿刺(片側)	○	○	○
D406	上顎洞穿刺(片側)、扁桃周囲炎又は扁桃周囲膿瘍における試験穿刺(片側) 赤文字H18追加	○	△	△
D407	腎嚢胞又は水腎症穿刺	○	○	○
D408	タグラス窩穿刺	○	○	○
D409	リンパ節等穿刺又は針生検	○	○	○
D410	乳腺穿刺又は針生検(片側)	○	○	○
D411	甲状腺穿刺又は針生検	○	○	○
D412	経皮的針生検法(透視、心電図検査及び超音波検査を含む)	○	○	○
D413	前立腺針生検法	○	○	○
D414	内視鏡下生検法(1臓器につき)	○	○	○
D415	経気管肺生検法	○	○	○
D4161	臓器穿刺、組織採取(開胸によるもの)	○	○	○
D4162	臓器穿刺、組織採取(開腹によるもの)(腎を含む)	○	○	○
D4171	組織試験採取、切採法(皮膚、筋肉(皮下、筋膜、腱、腱鞘を含む))	○	○	○
D4172	組織試験採取、切採法(骨、骨盤、脊椎)	○	○	○
D4173	組織試験採取、切採法(眼)	○	○	○
D4174	組織試験採取、切採法(耳)	○	○	○
D4175	組織試験採取、切採法(鼻、副鼻腔)	○	○	○
D4176	組織試験採取、切採法(口腔)	○	○	○
D4177	組織試験採取、切採法(咽頭、喉頭)	○	○	○
D4178	組織試験採取、切採法(甲状腺)	○	○	○
D4179	組織試験採取、切採法(乳腺)	○	○	○
D41710	組織試験採取、切採法(直腸)	○	○	○
D41711	組織試験採取、切採法(精巣(睾丸)、精巣上体(副睾丸))	○	○	○
D417	組織試験採取、切採法(膀胱)	○	○	○
D417	組織試験採取、切採法(前立腺)	○	○	○
D4181	子宮腔部等よりの検体採取(子宮頸管粘液採取)	○	○	○
D4182	子宮腔部等よりの検体採取(子宮腔部組織採取)	○	○	○
D4183	子宮腔部等よりの検体採取(子宮内膜組織採取)	○	○	○
D4191	その他の検体採取(胃液・十二指腸液採取)	○	○	○
D4192	その他の検体採取(胸水・腹水採取(簡単な液検査を含む))	○	○	○
D4193	その他の検体採取(動脈血採取)	○	○	○
D500	薬剤	○	○	○
D600	特定保険医療材料	○	○	○
E000	透視診断	○	○	○
E0011	写真診断(単純撮影)	○	○	○
E0012	写真診断(特殊撮影)	○	○	○
E0013	写真診断(造影剤使用撮影)	○	○	○
E0014	写真診断(乳房撮影)	○	○	○
E0021	撮影(単純撮影)	○	○	○
E0022	撮影(特殊撮影)	○	○	○
E0023	撮影(造影剤使用撮影)	○	○	○
E0024	撮影(乳房撮影)	○	○	○
E0031	造影剤注入手技(点滴注射)	○	○	○
E0032	造影剤注入手技(動脈注射)	○	○	○
E0033	造影剤注入手技(動脈造影カテーテル法)	○	○	○
E0034	造影剤注入手技(静脈造影カテーテル法)	○	○	○
E0035	造影剤注入手技(内視鏡下の造影剤注入)	○	○	○
E0036	造影剤注入手技(腔内注入及び穿刺注入)	○	○	○
E0041	基本的エックス線診断料(入院の日から起算して4週間以内の期間)	○	○	○
E0042	基本的エックス線診断料(入院の日から起算して4週間を超えた期間)	○	○	○
E1001	シンチグラム(画像を伴うもの)(部分(静態))	○	○	○
E1002	シンチグラム(画像を伴うもの)(部分(動態))	○	○	○
E1003	シンチグラム(画像を伴うもの)(全身)	○	○	○
E101	シングルホトンエミッションコンピューター断層撮影	○	○	○
E101-21	ポジトロン断層撮影(15O標識ガス剤を用いた場合)	○	○	○
E101-22	ポジトロン断層撮影(18FDGを用いた場合)	○	○	○
E101-31	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(15O標識ガス剤を用いた場	○	○	○
E101-32	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(18FDGを用いた場合)	○	○	○
E102	核医学診断	○	○	○
E2001	コンピューター断層撮影(単純CT撮影)	○	○	○
E2002	コンピューター断層撮影(特殊CT撮影)(管腔描出を行った場合)	○	○	○
E2003	コンピューター断層撮影(脳槽CT造影)	○	○	○
E201	非放射性性キセノン脳血流動態検査	○	○	○
E2021	磁気共鳴コンピューター断層撮影(単純MRI撮影)	○	○	○
E2022	磁気共鳴コンピューター断層撮影(特殊MRI撮影)(管腔描出を行った場合)	○	○	○
E203	コンピューター断層診断	○	○	○
E300	薬剤	○	○	○
E400	フィルム	○	○	○

200601012A (別冊3)

平成18年度厚生労働科学研究補助金 (政策科学推進研究事業) 分担研究報告書

診断群分類を活用した医療サービスのコスト推計に  
関する研究  
(H16-政策-027)

別冊3 DPC導入が画像診断・臨床検査に及ぼす影響の検討

平成19年3月

分担研究者	藤森	研司
主任研究者	松田	晋哉

平成18年度厚生科学研究費補助金(政策科学推進研究事業)

H16-政策-一般-027

診断群分類を活用した医療サービスのコスト推計に関する研究

(主任研究者:産業医科大学 公衆衛生学講座 松田晋哉教授)

## DPC 導入が画像診断・検査に及ぼす影響の検討

### 報告者

藤森 研司 札幌医科大学 医学部 放射線医学講座 講師 (分担研究者)

DPC が導入され、DPC データにより疾患群分類ごとに投入された医療内容の分析が多方面から可能となってきた。E,F ファイルからは、厚生労働省の診療マスターに基づく医療行為の内容と点数、数量、実施回数などが時系列で分析可能となった。

どのような疾患群分類においてどのような医療行為がどのようなタイミングで行われているか、従来までは個々の病院では分析可能ではあったが、全国レベルの分析は困難であった。DPC データは標準様式に基づく電子化データであり、多数の病院を一様に分析が可能である。疾患群分類ごとに診療内容の標準化が進んでいるのか、全国レベルで検討をすることも可能となった。今年度の研究では、主要な DPC について検査と画像と状況を、幾つかの切り口で分析を試み、ポートフォリオとした。

追加資料として、様式1、Eファイル、Fファイル等のDPCデータの分析手法について紹介した小論を添付した。

### A. 研究背景と目的

今回の研究では、診療状況の一指標として、症例数の多かった DPC14 桁における一入院あたりの検査及び画像診断の区分別費用を医療機関ごとに求め、その傾向を検討するための基礎的な資料を作成した。いわば、「検査と画像のポートフォリオ」の作成をおこなった。

データの安定性と紙面の都合上、総患者数の多かった順で上位 100 の DPC14 桁を分析対象とし、20 例以上の症例数を持つ病院のみを抽出し、該当する患者データを分析の対象とした。

ポートフォリオでは、検査を 12 区分、画像診断を 4 区分とし、各区分の平均値と標準偏差を求めるほか、箱ひげ図により分布を提示した。

また、E ファイルでは入院日、実施日等が分かるので、入院日を起算として経過日と実施点数を、DPC ごとに症例の多い 25 病院までに限って提示している。このグラフからは入院日からの検査および画像診断の診療密度を観察することができる。

また、検査、画像診断はいずれも診断を目的とする診療行為であるので、こられを一まとめとして、DPC ごとに円グラフで点



数割合を提示した。さらに、入院日数と検査点数、画像診断の点数にどのような関連があるかの検討をおこなった。

加えて、preliminary な分析ではあるが、主要な DPC における CT・MRI・核医学検査・冠動脈造影の実施回数の分析、造影剤におけるジェネリック製剤（後発品）の使用割合の分析、画像診断の収入と人件費・減価償却費等のコストとの関係も検討した。

## B. 研究方法

研究班に提出された平成 17 年度（7 月～10 月退院）の DPC データ（様式 1、E ファイル、F ファイル）を使用し、診療区分 60 の検査ならびに診療区分 70 の画像診断の項目の分析を行った。

対象は、データクリーニングを終了した 656,142 症例（243 病院）である。分析の対象となった E ファイル、F ファイルのレコード数を総数と症例平均で表に示す。

	総数		一入院平均	
	E ファイル	F ファイル	E ファイル	F ファイル
区分 60（検査）	38,479,875	46,876,560	58.6	71.4
区分 70（画像）	9,683,392	12,861,734	14.8	19.6

レコード数は、平均して検査が画像の 4 倍程度であった。E ファイルの 1 レコードは、診療現場では 1 回分のオーダーに相当する。

データベースは Microsoft 社の SQLServer 2005 を使用し、SQL 文によって必要とするデータを抽出し、MS-Access、MS-Excel、オープンソースの統計プログラムである「R」を分析に使用した。

E ファイルそのものには経過日の情報はないが、実施日が記述されているので、入院日からの経過日数を計算した。ポートフォリオは E ファイルのデータを使用して計算しており、F ファイルは使用していない。

造影剤ジェネリック（）の分析、心の血管造影の分析では F ファイルも使用した。造影剤の分析では、厚生労働省の薬剤マスターと突合して、ジェネリック製剤を特定した。

診療区分 60 の検査ならびに診療区分 70 の画像診断ともに、厚生労働省の診療マ

スターでは膨大な数の項目がある。すべてを個々に分析することは可能であるが、結果の表示としては見通しが悪くなる。そのため、本報告書では、項目の機能的類似性に基づき、検査は下記の 12 分類、

- ・ 検体
- ・ 細菌
- ・ 病理
- ・ 生理
- ・ 超音波
- ・ 内視鏡
- ・ AG
- ・ 穿刺
- ・ RI
- ・ 骨塩
- ・ 判断料
- ・ 心理

画像診断は下記の 4 分類、

- ・ Xp
- ・ CT・MRI
- ・ 核医学

・ 造影

に大きくまとめて分析を行った。その分類を、別表1（検査）、別表2（画像診断）に示す。

CT・MRIについては、原理的には大きく異なる種類の検査であり、検査目的も異なるため、個別に扱いたいところだが、医科点数表では両者とも E200 番台として扱われる。さらに CT・MRI の同月 2 回目の撮影（いずれが二回目でも）は、「CT、MRI（二回目以降）」として、同じ電算レセコードになるため、DPC データでは当該の検査が CT であったのか MRI であったのかの区別ができない。

全体的には、この「CT、MRI（二回目以

降）」が初回の CT と初回の MRI をあわせた程度の件数があったため、ここでは全てを含めて CT・MRI として一区分としている。

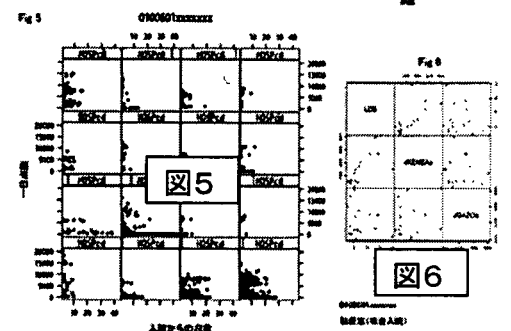
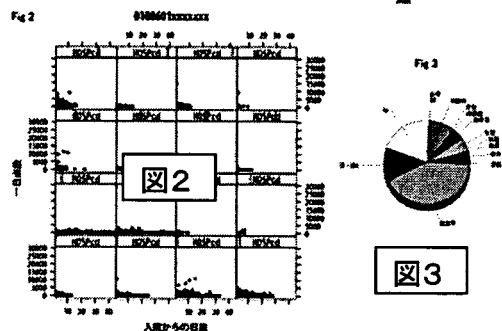
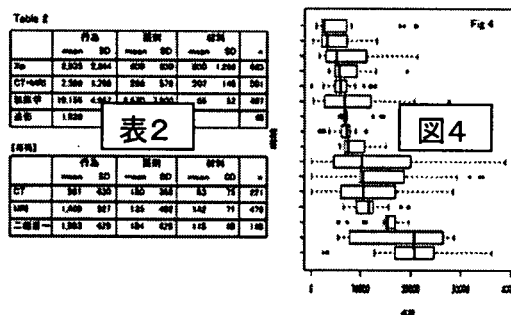
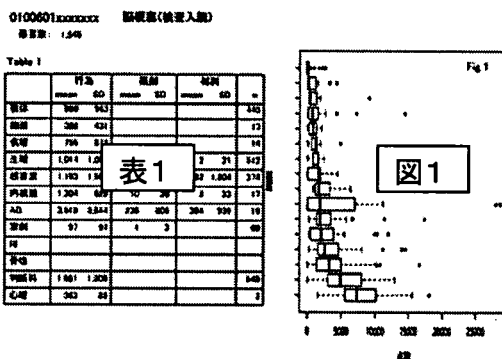
なお、本研究では DPC コードは平成 16 年度版を使用している。

C. 結果ならびに考察

1) 診療ポートフォリオ（検査・画像）

症例数の多い 100 の DPC14 桁分類について解析を行った（附帯資料 1）。使用したデータは、当該 DPC について 20 例以上の症例数がある病院を対象としている。従って、DPC ごとに分析対象となっている病院は異なる。

ポートフォリオの構成を下記に示す。



DPC14 桁ごとに、検査と画像診断で見開き 2 ページの構成とした。左ページが検査で、上段に DPC14 桁コードとその日本語名称、患者数を記している。

表 1 には 12 の区分の検査にかかわる点数を行為料、薬剤料、材料料の三区分でそれぞれ平均値と標準偏差を記載した。行為料は薬剤料と材料料を含む総点数である。右

端の n 欄は、それぞれの区分のレコード数である。

図1は、対象病院の検査総点数を箱ひげ図でプロットしたものである。20 症例以上ある全ての医療機関をプロットしている。中央値の小さいものから大きなものに並び替えて表示している。縦軸が病院、横軸が点数である。本報告書では、病院名称は記載していない。

本プロットの箱は第 1 四分位点 (Q1)、中央値 (第 2 四分位点、この図では太線)、第 3 四分位点 (Q3) と呼ばれる要素で描画され、上側の「ひげ」は箱から四分位範囲 (Q3 - Q1) の 1.5 倍としている。黒点ははずれ値である。

箱ひげ図に表示されている病院数を見ると、多数の病院が診療している DPC と、幾つかの病院に限局している DPC があることが分かる。

また、プロットからは、比較的ばらつきの少ない施設と、ばらつきの大きい施設が見られ、DPC により病院ごとの差が相当にあることが伺える。

図2は、各群において症例数の多い上位 25 病院 (25 病院に達しない場合は、その数だけに限定し、入院日 (横軸) からの検査総点数 (縦軸) をプロットしている。表示上の、入院日の max は 45 日とした。それぞれの箱が一つの病院であり、それぞれの点が患者一日ごとの点数である。

DPC により、表示した全ての病院で同じような傾向を示すものと、ばらつきの大きいものがあることが観察される。検査の標準化が進んでいる DPC と進んでいない DPC があると言い換えることができるかもしれない。

図3は、検査と画像診断の各区分の点数を

円グラフで相対表示したものである。診断に必要な点数に占める、それぞれの項目の割合が分かる。このグラフは、当該 DPC で 20 例以上の症例がある病院の平均値で作表されている。

続いて見開きの右ページは、画像診断についての分析結果である。表2は表1と同様の表示である。図4は図1と同様、図5は図2と同様なプロットである。

図 6 は、在院日数 (LOS) と検査 (cKENSAA)、画像診断 (cGAZOa) の総点数の関係をプロットしたものである。疾患により検査主体のものと、画像診断が主体のものがあることが見て取れるが、ばらつきは大きいようである。

医科点数表における検査、画像診断の分析上の課題の一つとして、それぞれに所定の基本料があるため、これらは実際の検査の有無に係わらず入院期間中を通じて算定される。平成 17 年度では、基本的検体検査実施料 (4 週間以内) が 150 点、基本的検体検査実施料 (4 週間超) が 120 点、基本的エックス線診断料 (4 週間以内) が 55 点、基本的エックス線診断料 (4 週間超) が 40 点である。

このため、検査点数あるいは画像診断点数の合計値の一部は、実際の投入量とは無関係に LOS 依存で比例的に増える部分がある。従って、総点数が必ずしも診療の activity を表さない、あるいはコストを表さない可能性は若干あるが、基本料を差し引いて集計を行うことも可能である。

また、医科点数表では、がんの確定診断後の悪性腫瘍マーカーは、検査料の項目ではなく指導管理料の項目で算定するため、実際の検査数については検討ができない限

界がある。指導管理料が算定されている場合、腫瘍マーカーの検査が行われたことはわかるが、どの検査が何回されたかは分からない。

本年度の研究では平成17年度データの分析のみに終止し、平成16年度データ、ならびに平成18年度データの分析には着手できていない。

DPC 導入が検査・画像に及ぼす影響の検討が本研究のメインテーマであったが、単年度の分析のため、変化については言及できていない。この点については、今後早急に着手すべきところと考えている。

また、特定機能病院、試行的適応病院については平成14年度、15年度もデータの提出がされているが、Eファイル、Fファイルの提出は必須ではなく、また電算レセコードの使用も必須ではなかったため、これらの年度では、今回のような分析は困難である。

単年度のデータではあるが、本研究報告書に示す分析結果は各 DPC のポートフォ

リオとして、自院との比較に使用できるであろう。

## 2) CT・MRI 検査の分析

### a) 検査数の検討

平成16年度（平成17年度も同じ）の医科点数表では、CT・MRI とともに撮影部位によって頭部、躯幹、四肢の三区分に分類される。さらに検査手法により単純撮影と特殊撮影に分類される。造影が行われたか否かの判断は、F ファイル上の造影加算の有無で判別することができる。

分析をやや難しくしているのは、前述のごとく CT あるいは MRI の同月 2 回目の撮影（いずれが二回目でも）は、「CT、MRI（二回目以降）」として、同じ電算レセコードで扱われるため、CT か MRI かの分類が困難である。造影剤を使用している場合は、造影加算から当該の検査が CT であったか MRI であったかの分離は可能であるが、造影されていない検査では両者の分離ができない。

一例を示すと、

DPC	患者数	CT 件数	MRI 件数	二回目 検査件数	二回目 造影 CT	二回目 造影 MRI
0100603099x11x	4,223	5,359	3,431	8,035	285	139

DPC 0100603099x11x(脳梗塞(JCS30 未満)、手術なし、手術・処置2あり、副傷病あり)は、当該月の初回に行われた CT あるいは MRI の件数がそれぞれ 5,359 件、3,431 件であり、二回目にどちらかが 8,035 件行われている。二回目のうち、造影加算から CT、MRI がそれぞれ 285 件、139 件行われたことが分かるが、造影されていない残りの 7,611 件(8,035-285-139)については、どちらの

検査が行われたか (CT か MRI か) は特定できない。

従って、電算レセマスターコードを分析し検査の種別を判定を行うと、「単純 CT」、「造影 CT」、「単純 MRI」、「造影 MRI」、「どちらか二回目以降の造影しない CT あるいは MRI」という 5 区分となる。

医療機関によっては、コメントレコードに検査種別を記載している場合があるが、

この情報を全国データで利用するにはもう少し研究が必要である。これは、コメントレコードの中身はコード化されていないため、文字列を判別する必要があるためである。行為名称は個々の病院によって大きく異なる。

今回は二回目検査の件数から造影として明示的にわかるものを除いた部分を、各 DPC の明示的に分かる CT・MRI 件数で按分して、延べの CT・MRI の件数を推定した。初回は

はより点数の高い MRI を先行して行い、二回目を点数の低い CT とする施設があるようだが、今回は「順序はランダム」と仮定し、単純に比例按分としている。従って、検査数の数値は推定値であることをあらかじめお断りしておく。

DPC14 桁で検査件数の多いもので、CT、MRI 検査の状況を回数として表に示す。平均回数は、一入院当たりの検査件数である。

DPC	患者数	総 CT 回数	総 MRI 回数	平均 CT 回数	平均 MRI 回数
0100603099x11x	4,223	10,306	6,519	2.4	1.5
0400403x99x20x	7,697	7,539	2,522	1.0	0.3
0100603099x10x	2,656	5,917	3,932	2.2	1.5
04008030xxx00x	9,393	8,674	566	0.9	0.1
0100603099x01x	2,782	4,400	3,116	1.6	1.1
1604203x99x0xx	2,648	6,566	710	2.5	0.3
0100603099x00x	2,913	4,082	2,940	1.4	1.0
0100203002xxxx	624	5,992	268	9.6	0.4
0100403099x11x	1,191	4,999	997	4.2	0.8
1102803xxxx1xx	5,923	4,573	1,021	0.8	0.2
0705603x99x0xx	3,999	3,474	1,469	0.9	0.4
0703403x0100xx	2,526	3,053	1,786	1.2	0.7
0600503x05x11x	3,192	4,074	526	1.3	0.2
0703403x99xxxx	3,150	2,638	1,689	0.8	0.5
0304003x99xxxx	3,169	2,584	1,358	0.8	0.4
1000703x99x1xx	4,624	2,778	1,160	0.6	0.3
0400403x99x00x	2,594	2,687	930	1.0	0.4
0100103001011x	393	1,801	1,699	4.6	4.3
0602103x99x00x	4,236	3,371	121	0.8	0.0
0401103x99x00x	2,690	3,255	221	1.2	0.1

MDC01 脳神経領域、MDC04 呼吸器領域で、入院中の CT・MRI の利用件数が多いようである。

50 症例以上の DPC 群で一入院あたりもっとも CT 検査数が多かったのは 0100203102x1xx (くも膜下出血、破裂脳動

脈瘤（JCS30 以上）、脳動脈瘤流入血管クリッピング（開頭して行うもの）等、手術・処置 2 あり）であり 227 症例、平均 13.2 回であった。

もっとも MRI 件数が多かったのは 0100103001011x 脳腫瘍（15 歳以上）、頭蓋内腫瘍摘出術等、手術・処置 1 なし、手術・処置 2 あり、副傷病あり）であり 393 症例、平均 4.3 回であった。

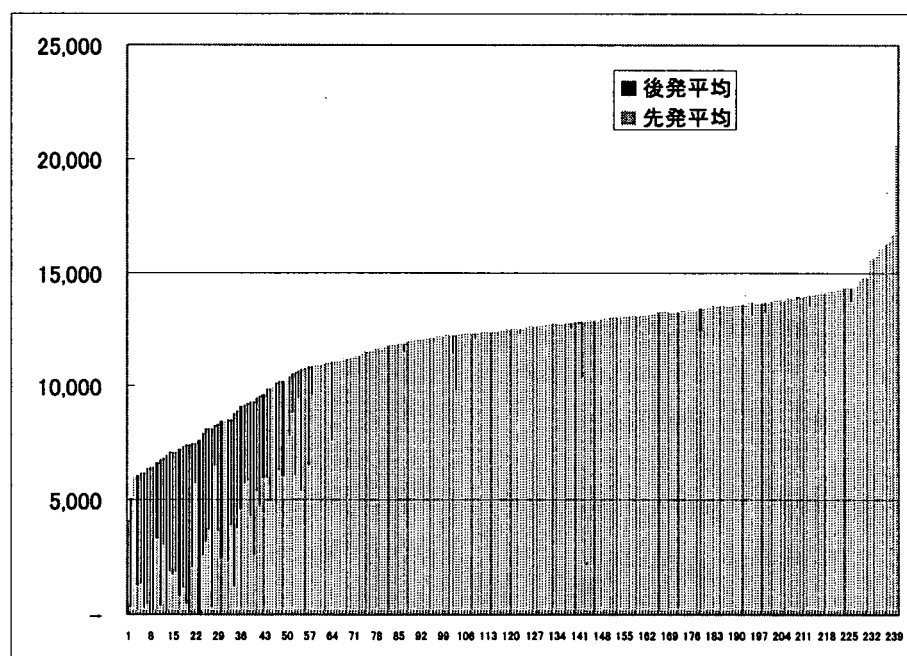
今回の検討では、CT・MRI の総回数分析であり、部位情報は利用していない。今後の検討課題としては、部位情報を利用することで、たとえば MDC01 では頭部の検査が何回行われたかという、疾患特異的な検査の特定が必要と考えている。

一方、平成 18 年度の医科点数表では、

CT・MRI に関しては部位による区別がなくなり、新たに機器の能力による区別が導入された（マルチスライス CT の有無、1.5T 以上の MRI の有無）。従って、部位による CT・MRI の分類は平成 18 年度以降できなくなり、平成 17 年度以前との連続性が絶たれた形である。

#### b) ヨード系造影剤の検討

CT 検査で用いられるヨード系造影剤はジェネリック製剤の普及が進んでいるようだが、平成 17 年度での分析対象施設での状況を図に示す。この図は、医療機関ごとに一回あたりの検査での造影剤薬価を先発品と後発品に分けてプロットしたものである。



造影検査平均の造影剤薬価のもっとも低額な医療機関と高額な医療機関で、薬価で三倍弱の差がある。横軸の左側の群に見られるよう、後発品を主に使用している施設

で造影剤薬価が低い。

今後、外来データの分析が可能となるので、外来と入院でのジェネリック造影剤の使用量に違いがあるのか、検討することも

可能である。これは医療機関の経済原理を検討するための一つの指標になるかも知れない。

### 3) 核医学検査

平成16年度の医科点数表では、核医学検査は、

マスター	名称	レコード数
170015010	シングルホトンエミッションコンピューター断層撮影	19,753
170020610	ポジトロン断層撮影( <sup>15</sup> O標識ガス使用)	60
170024510	シンチグラム(部分・静態)	4,269
170024610	シンチグラム(部分・動態)	3,128
170024710	シンチグラム(全身)	18,249
170024810	ポジトロン断層撮影(18FDG使用)	865

の6区分に分かれる。右端に本研究で用いたEファイル上のレコード数(検査件数)を示す。

現行の医科点数表では、核医学検査は部位による区別はないが、検査方法によって点数が異なる。また、Fファイルからは使用した放射線医薬品の情報が分かるので、検査法の情報を組み合わせると、検査目的がほぼ推定できる。今回の報告では、検査法の分析までとし、薬剤および検査目的の分析は行っていない。

分析に先立ちにデータの正確性を検討し

たところ、療養担当規則では、同一の検査では主たるものを請求することになっているが、提出されたデータでは同じ項目が重複している場合や、異なる項目と組み合わせられている例(本来はどちらか一方で請求)が散見された。

実際のレセプトで重複しているとは考えにくいので、一部の病院ではレセプトとEファイル、Fファイルのデータが一致していない可能性は考えられる。

DPC14桁において、核医学検査の検査総数の多いものを表に示す。

DPC	患者数	全身シンチグラム	SPECT	動態シンチグラム	静態シンチグラム	PET	小計	平均検査数
0400403x99x20x	7,697	1359	19	6	53	28	1,465	0.19
0500503x9901xx	1,404	23	1197	53	45	1	1,319	0.94
0500501xxxxxxxx	14,221	10	1124	25	33	1	1,193	0.08
0705603x99x0xx	3,999	689	187	110	112	3	1,101	0.28
0100603099x11x	4,223	36	983	21	20	2	1,062	0.25
0500303x0401xx	970	16	992	27	18	9	1,062	1.09
0501303x99000x	4,364	58	733	50	69	7	917	0.21
0100601xxxxxxxx	1,545	6	761	2	3	23	795	0.51
0400401xxxxxxxx	2,589	645	23	15	35	17	735	0.28

0400403x99x00x	2,594	621	24	6	33	21	705	0.27
0100603099x10x	2,656	30	507	6	12	3	558	0.21
0100603099x01x	2,782	19	505	7	14	8	553	0.20
1102803xxxx1xx	5,923	199	225	33	46		503	0.08
0100603099x00x	2,913	18	449	5	9	4	485	0.17
0900103x010000	3,808	285	3		100	1	389	0.10
0400403x97x1xx	846	329	3	6	25	9	372	0.44
0500503x05010x	397	6	340	3	14	4	367	0.92
1102803xxxx0xx	4,462	134	63	115	36	1	349	0.08
0101603x99x10x	494	11	275	5	40	1	332	0.67
0400403x99x21x	1,023	284	11	1	17	5	318	0.31

MDC05 循環器領域、MDC 04 呼吸器領域での核医学検査の利用が多いようである。

50 症例以上の DPC 群で一入院あたりの全身シンチグラフィがもっとも多い DPC は 1000203x99x2xx (甲状腺の悪性腫瘍、手術なし、手術・処置 2\_2 あり) で 171 症例、平均 0.78 であり、これは I-131 治療後の確認撮影がされているものと考えられる。

SPECT 撮影がもっとも多い DPC は 0500653x99x1xx (拡張型心筋症、手術なし、手術・処置 2 なし、副傷病あり) であり、135 例、平均 1.08 であった。この DPC では、ほぼ全例で核医学検査が施行されていると

推定される。

今後の課題は、薬剤情報を使用し、検査目的と DPC の関連を検討することある。

#### 4) 心の血管造影

血管造影の分析手法を検討するために、心の冠動脈造影を例にとって分析を行った。

心の血管造影は大きく心室造影と冠動脈造影に分かれるが、ここでは冠動脈造影に注目して分析を行った。

F ファイルから、検討の対象となる電算レセコードと出現したレコード数を表に示す。

マスター	名称	レコード数
160065570	心筋採取加算	458
160064610	心カテ(右心)	8,533
160064770	心カテ(新生児)加算	12
160064870	心カテ(乳児)加算	178
160064970	左心カテ(卵円孔)加算	55
160065070	左心カテ(欠損孔)加算	37
160065170	ブロッケンフロー加算	14
160065270	伝導機能加算	892
160064510	心カテ(左心)	29,436



160065470	冠動脈造影加算	29,197
160170270	血管内視鏡加算	37
160065650	ヒス束心電図加算	932
160065750	診断ペーシング加算	1,021
160155470	心カテ(幼児)加算	239
160164970	血管内超音波加算	603
160065370	期外(早期)刺激法による測定・誘発試験加算	1,082

この中で、同日に両心カテが算定されている症例が4,547件、左心カテ+冠動脈造影が27,616件、右心カテのみ+冠動脈造影が3,990件であった。分析には左心カテあるいは右心カテのいずれかあるいは両方が同

日に行われ、冠動脈造影加算のある28,209検査を対象とした。一入院中に3回の冠動脈造影をされたケースが9例、2回行われたケースが407例あった。

DPC	患者数	検査数	平均回数
0500501xxxxxxx	14,221	12,968	0.91
0500503x99000x	3,040	2,047	0.67
0500503x9901xx	1,404	864	0.62
0500503x99001x	1,243	791	0.64
0501303x99000x	4,364	627	0.14
0500503x050000	2,934	607	0.21
0500801xxxxxxx	645	519	0.80
0500503x05001x	2,003	421	0.21
0502103x9701xx	2,578	305	0.12
0500303x0401xx	970	266	0.27
0501631xxxxxxx	450	248	0.55
0500503x05011x	632	204	0.32
0500503x02001x	297	198	0.67
0500503x03x1xx	218	193	0.89
0500301xxxxxxx	219	187	0.85
0501701xxxxxxx	486	186	0.38
0500503x97xxxx	308	181	0.59
0500303x040000	806	178	0.22
0500503x03x01x	265	171	0.65
0500303x04001x	716	170	0.24

50例以上のDPC群でもっとも冠動脈造影検査回数が多いのはDPC 0500501xxxxxx(狭心症、慢性虚血性心疾患(検査入院))であり、平均0.91回の検査が施行されていた。本DPCは狭心性の検査入院であるが、1割の症例は血管造影が目的ではなかったことが推定される。

0500503x0201xx(狭心症、慢性虚血性心疾患、冠動脈・大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しない場合)、手術・処置1なし、手術・処置2あり)、0500801xxxxxx(弁膜症(検査入院))、0500301xxxxxx(急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞(検査入院))も、冠動脈造影検査の回数が多い群であった。

本検査も時系列での分析が可能であり、入院から冠動脈造影までの日数、ステント・CABG後の造影検査(確認造影)の有無についても分析可能である。

診療区分60では、超音波や内視鏡検査等、他の生理系の検査については同様な分析が可能である。

診療区分70では、選択的血管造影加算として、血管造影の特定が可能であるが、

部位が特定できない。また、この加算のない血管造影は他の造影検査と区別ができないという分析上の難点がある。

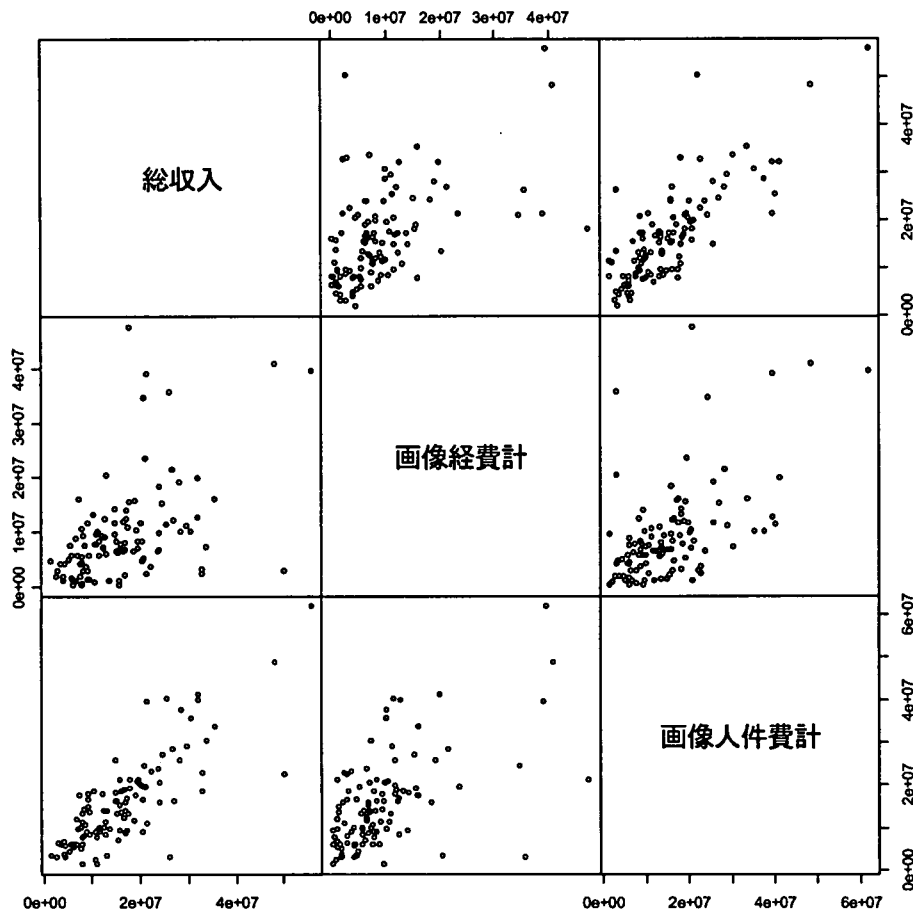
診療区分60と70では、同じ血管造影検査でも医科点数表の構造が異なる。

## 5) 画像診断のコスト分析

研究班の研究課題の一つであるコスト分析の結果の一部と合わせ、画像診断の保険収入と人件費ならびに減価償却費等の検討を行った。

人件費は各職種の延べ時間のデータを使用し、月168時間を一人として計算した(各病院から提出された168時間換算人数を使用した)。給与は、国家公務員の平均年齢における各職種の給与データを使用した。使用したデータは、平成17年7月分である。

画像診断の総収入に対して、人件費ならびに他の経費の総計をプロットした。人件費は、放射線科医師、診療放射線技師を始め放射線部に属する人員の費用である。「他の経費」とは、主に減価償却費、委託費、リース費であり、薬剤・材料の購入費は含まない。収入・支出とも、いずれも入院部分である。

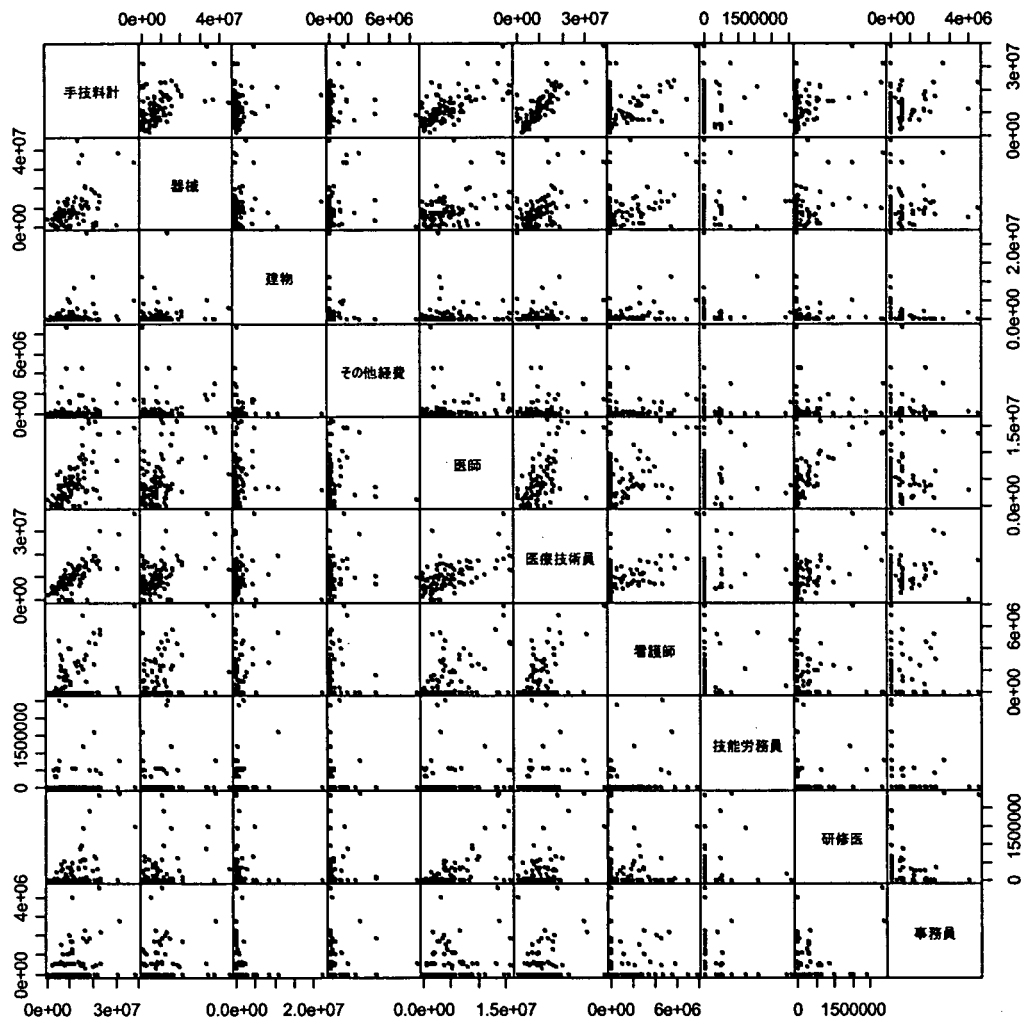


それぞれに、比較的バラツキが大きく、たとえば収入に対する経費（人件費を除く）では、最小二乗法による直線回帰で、 $y=1.312x+4 \times 10^6$ であり、 $R^2=0.567$ であった。このバラツキに、どの程度のコスト推定上の誤差が関与しているのか、今後の詳細な検討を要する。

なお、人件費については国家公務員の平均給与を使用しているため、必ずしも実態の支出ではないが、国家公務員の平均給与を使用するとすれば、画像診断に関してはコスト割れしている可能性が高い。さらに、このコストデータには薬剤・材料を含んで

いないので、これらのコストを含めると、さらに損益が拡大すると思われる。

前期は、総枠の比較であるが、さらに人件費は、常勤医師、研修医、技師、看護師、補助員に分類し、人件費以外の経費は、器械の減価償却費及び委託費、建物の減価償却費及び委託費、その他に分類して、関係を検討した。下記のプロットでは、収入については総収入ではなく、手技料（行為点数－薬剤料－材料料）としている。これは、コストデータには薬剤及び材料を含んでいないためである。



手技料収入と器械の減価償却費には比例傾向が観察されるが、建物のそれとは関係が薄いようである。人件費と手技料収入の関係では、診療放射線技師人件費の方が放射線科医師人件費よりも、手技料収入との関連が強い。また、看護師人件費は、必ずしも手技料収入とは関連が薄いようであるが、これは看護師の有無あるいは人数が、病院によってかなり異なっているためと思われる。

#### D. 結論

平成 17 年度の入院データを使用して、

DPC ごとの主要な検査・画像診断の種別と投入量を分析する手法を開発した。それぞれの検査によって医科点数表に特徴があるため、ストレートな分析はやや困難であるが、全体の区分ごとの点数だけではなく、検査の回数、使用した薬剤の分析も可能になった。さらにデータは日付情報を持っているので、時系列での分析も可能であった。

平成 18 年度データについては、一部の医療機関では外来データの利用も可能であるので、今後、入院前後の外来診療における検査・画像診断の状況についても分析を行う予定である。